

【質問】 人生の最後に痛みや不要な治療で苦しむことなく静かに最期を迎えるにはどうしたらいいでしょうか。

(86歳男性)

静かに最期を迎えるには

【回答】 人は必ずいつかは死を迎えます。では「人生の終末期」とはいつかいつでしようか。

多くの人はがんなど悪性の病気にかかり、治療をしても効果が得られず死が近づいてきた時期と考えるでしょう。しかし、かつては不治の病と恐れられていたがんも、最近の治療法の進歩で治すことができる場合もでてきました。逆に、治療による副作用や体力の消耗により健全な日常生活を送ることができなくなる場合もでてきました。

受けたい医療 文章に

日頃から家族へ思い伝えて

意思表示を示すことが非常に大切です。

2007年、厚生労働



とが記載されています。「医療従事者から患者、家族に対して適切な情報の提供と説明がなされ、話し合い、患者本人による決定を基本に、人生の最終段階における医療を進めることが最も重要な原則」「患者の意思が確認できない場合であつ

送ることができなくなる場合もでてきました。高齢者特有の問題、小児の難病、神経難病、さらには救急医療のような場面でも「終末期医療」を求められる場合が多々あります。このような場面で、本人や家族が終末期医療についてどう考えているのか。その

省は人生の最終段階を迎えて、患者や家族と医療従事者が、患者にとって最善の医療とケアを作り上げるためのガイドラインを策定しました。「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」です。

その中には次のようなことも記載してあります。

受けたい医療やケアについて、日頃から自身の考えを家族や医師と話し合い「私の心積もり」として文章に残しておくこと、今後の医療やケアの方針として反映されます。その手順をアドバンス・ケア・プランニングと呼んでおり、厚生労働省を中心に普及のための講演会が各地で行われています。

「死を語るなんて縁起でもない」。多くの人はそう思うことでしょう。しかし死はある日突然やってくることもあり得ます。その時に慌てないよう、人生の最後に対する思いを家族に伝えておくことが大切です。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。